夫木和歌抄

巻十二

へ創4
1765
12

129

門1創4
1765
12

371

文永和哥抄卷第十二

秋部三

題

鹿　鳳　秋田

稲妻　稲負鳥

512

京都帝国大学図書館

作詠ハ
ナシ

鹿

三行分ハ
三字ヲ
彫ル

方八　ゆきかれぬをちこちのやまにたなびくかすみのしたにかくれぬ

岳
山本天皇御製

方八　ふるさとのあきのやまふかみ
妻ヒイ　聲
ものおもふこゑのしかぞかなしき

中納言家持卿

方九　ときとしのさとのいへちかみ
萩
山イ
ちかのはぎ

方八　うの花のあかきかけはあらしのやまのあさぎり
朝
月

人丸

方十　さをしかのなかなくあきのはつかりのこゑ
秋
きイ

伊豆国
賀茂郡
熊坂村
賀茂蔵書

513

万十 ほとゝぎす

万十 都

妻 聲

日一 鹿 同

万十四 鹿 同

万十 雁 萩

万十 同

万十 同

万十 萩

万八

万十二 峯 鹿

思

歌 雅 雅

万十 鶴

万十 歌

百首歌 鹿

寄道法師

万十 歌

歌中

万十 歌

貫之歌合

万十 獨

文治六年女院入内屏風 法住寺殿

万十 歌

314

春山の花のわかれにたえてちりもとまらぬ春の
天徳三年八月廿五日内裏歌合　源重之
うぐひすなく
元真
ちるのこころをしらでけふなくうぐひすをいとうるはし
拾遺雲林院の百首鹿　拾遺雲林院
ちるはなにこころやまとまるさをしかのつまとなのるこゑをきくらん
朝
みるまもなくちりまがふはるのやまのこゑをしるべにたれかこゆらん
大納言師教
おもひやるはるのやまのこゑをしるべにたれかこゆらん
拾中納言道房

かすみのたちかくすらんとうぐひすのこゑをしるべにたれかこゆらん
下
ちるはなにこころやまとまるさをしかのつまとなのるこゑをきくらん
拾遺大江嘉言
あしひきのみやまをなくしかのつまとなのるこゑをきくらん
拾中納言師頼
うもれすまるれぬ山ちをまよはしてしかのこゑをたづねてやこん
鹿
久安百首
きりのつまとなのるこゑをたづねてやこん
今宵
文治六年二社百首歌　皇太后宮大夫俊成
寶治百首

515

このうとうて　妻
　　山のあらしの
　　聲

　　正三位家隆卿

　　妻
　　ありてこの夜ありけるとやまうの山に雨のふる音

建長二年十月名所百首歌

　　侍従藤原為家

　　燒原

　　為教卿

　　為教卿
　　せ

　　正三位家隆卿

　　為教卿

　　鹿

　　三位家入道前大臣

　　円

　　十月のひとつ時ばかりに雨そそぐ音

　　宋雲院入道前太政大臣親王家五十首燒原

　　西園寺入道前太政大臣

　　家集雨

　　如願法師

　　ちイ　さえイ

　　鳴

　　かる

　　門跡社家合燒原

　　秋篠宮

　　やま

　　山の端にうつるのちさびしきいなの月の色

　　前右兵衛督二川國名家歌合萩山

　　藤原定経

516

保延元年八月歌合

元真法院入道二品親王家五十首歌

前中納言光通

中務卿

同

中務卿

仁安二年八月經盛朝臣歌合

源重有朝臣

保延元年八月歌合　中納言家成

517

二字

歌判公基朝臣妻姫數不異前生入夢

5

之人姿然中うめのかをつるとてうぐいす

をんなのうしろにたちてこゑはなくしてあるこゑにて

我抜申

前中納言定家卿

ゆふくれのこゑもしるかの藤の花のあをくたちて

歌集ふるのやしろのかみのまくらにかをるかな

うらうすきそらにて

後鳥羽院

さくらはなの面影にかをるかな

藤原俊成

春のこゑはるかにかをるうぐいす

藤原鹿

ひとりなるかをるうぐいす

月

藤原鹿

ひとりなるかをるうぐいす

月

藤原鹿

ひとりなるかをるうぐいす

月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

519

きてこれいきあるうきをしらにうつれるくもの

結願門院安嘉門院

花園左大臣

あしたゆくあきのとこすれい

結願つ院播川

きこえにくるひきふさとのさうれ吹うきたとうくの

文治六年五社百首

皇太后宮大夫俊成

玉葉 秋上

あらしふきやうきあきたこそかつみい秋の山里

二社百首 秋

二社百首四季 合

恋

はるかすきやうきあきをへとうきふるとしの

家集

元真

うるもふしもこそ吹けはるの声ふりゆくとしの

或ふりようとそ

恋

藤原清輔

うるもふしあるこのりうとにあるうきうるの

家集

円

ことふしのかけよりうたのうきうるとうるとうるの

寛喜元年廿四入内屏風歌

後二条摂政

きこえのうのそめれるかとうの出ようきとの

家集秋部中　同

ひぐらしの　はぎ　なくやとの　あき　の　白露

俊成卿入道

山里秋閑鹿　関

なかなかに　なと　しかぞ　の　関　と　ならむ

藤原清輔朝臣

永久四年百首　秋心

をのへ　あさ　ぢ　ふ　の　秋　の　ありれば　ものの　ハ　さ　り　ぬ

人と　ゐる　ぬ　の　ま　ま　に　庵　の　ゐ　る　れ　ば

西行法師

ものの　ひと　ぬ　ま　に　つ　け　て　ま　ち　し　人　の　ゐ　ま　ち　し　ま　ま　に　や　ま　と

俊成卿

中納言国信卿

つ　ま　ま　ち　て　ま　ま　の　ま　ま　に　ま　ま　の　ま　ま　に　ま　ま　の　ま　ま　に　ま　ま　の　ま　ま　に

崇徳院御所花月会歌　方

皇太后宮大夫俊成

なぐ　ま　ま　ま

521

[illegible]

家業兼清卿鹿

やよいたにしおりの松乃風　また

[illegible]

三千首歌　次

[illegible]

林の森の梢　こ

[illegible]

隆祐卿

同

[illegible]

建長三年百首歌　卿

[illegible]

嵐

[illegible]

源之仲

[illegible]

鹿

后宮文歌合

[illegible]

を

[illegible]

永久四年七月賀茂社歌合

聽西方人

を　鹿　聲

[illegible]

[illegible]二位家隆卿

[illegible]

鹿　聲

[illegible]

[illegible]

522

[illegible]

仁安二年　奉[illegible]

[illegible]

覚[illegible]法師

[illegible]

尊[illegible]法師

[illegible]

勝[illegible]法師

[illegible]

和歌

[illegible]

如[illegible]法師

[illegible]

[illegible]

後[illegible]院西[illegible]

[illegible]

文[illegible]元年七社百[illegible]

[illegible]

[illegible]

5223

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三字ナ

四方判云 張紙伯弟仲々云右ちとゝく中ちゝ殿
ゝゝ伯ゝれつゝ
いそのゝさせん
をまゝきれたゝハんゝそけゝあゝむゝとゝゝゝ
ちれゝゝをあまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

原ゝ廉ゝゝゝ式　後鞍弱長

秋ゝれハゝちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

秋六月

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

526

百首

[illegible]世[illegible]山のゆふ[illegible]

寶治百首

家集秋中

中務

新拾雜上

人[illegible]

家集

和泉式部

[illegible]

家集秋

法印定覺

[illegible]

秋中

源仲正

[illegible]

大治二年八月廣田社二合曉歌

[illegible]

家集秋

法橋師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

519527

[illegible]

布引百首内　法眼定宗

[illegible]

家業

[illegible]

[illegible]

平政村朝臣

[illegible]

富道法師

[illegible]

建保四年前内大臣家百首

法印定雅

[illegible]

中務卿宮

[illegible]

建保三年[illegible]百首

正三位知家卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

529

花

あしの山ぶしのけてきゝあるりまつ人のをとさそふこゝろ

法二位家歌合

秋のよ乃秋百首

秋きりのたゝぬ山のまにゝなるつまこそ見るつまこそやまん

岡

寄月恋

弘安元年百首歌

白雲のたゝぬ山のをゝしかのこゑにぞ月のかたぶくまし

乱安三年七月右大臣家歌合

ちりぬれはまきるものゝ立ちつまのゆきてとんもとゝまる

行

弘安三年八月歌合

清輝朝臣

秋風のふくにつけてもあしの山のをゝしかのこゑ

狩

見わたすかりのゝ秋のゆふ風に

秋

三字

けさ千判の紙伯耆仲人

秋

みつこゝろ伊勢

はるのゝ

うちつけかこ

ものゝ

ゆきとも

につさそ

山集羇中歌

蓮金右大臣

330

[illegible]

一百首中

尾花　草

[illegible]

建保三年内裏百首歌

前中納言定家卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一百首中

[illegible]

秋夕虫

[illegible]

文永二年七月白河殿七百首抽歌

右近中将具氏朝臣

[illegible]

延慶二年九月陽成院歌合始

[illegible]

故業平朝臣の心のうちをよめる

惟喬親王

[illegible]

遠保三年十月廿九首尾合歌

水無瀬院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

532

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文治三年廿八日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

5555

[illegible]

建暦二年閏十月廿八日の秋の夕暮

[illegible]

[illegible]

続千載上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋ものゝ上ゆくすゑのこゝろをやつの船とハ
　　名所の中　　　

535

玉 秋上

[illegible]

秋二十中 東門

[illegible]

[illegible]

[illegible]

536

[illegible]

寛治二年八月日条文合

[illegible]

大蔵卿房

[illegible]

光堂院入道二品親王家千首 嘉承

法印幸憲

[illegible]

文安百首

[illegible]

前参議親房卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

麻殺人の方といふことを　板白河院御製

山里は秋の夕ぐれわけてこそ人の心の

和漢十首合和歌　板後鳥羽院御製

久かたの月の光に麻はひとりとうけて物ぞかなしき

板九条内大臣

あさすむ月のこかげもしきしの麻とりみちぬ衣きりしら

日

柳葉新代百首

うつもるさはの麻のたやすくとりあつめやかくもん

寶治二年百首歌麻　後嵯峨院女

さ夜ふけてうしのつまどの麻の門に物ぞまちかねる

弘長四年毎日一首中　民部卿為氏

をとこ山ふもとの麻をみちたりてあさぼらけ色ぞ出

彩とりてうつれいすてしをとこ山麻

建長七年歌合百首中　杜麻

ゆふたすきかけてのちの代ちかつ人つまとふ麻のうらぶれてなく

お

東集社間麻

さ麻やなりぬるうんをとりのつまとふ麻のうらぶれて

日

554

寛永四年八月院名称陸奥守大納言

[illegible]

具親卿記

[illegible]

従二位藤原朝臣

[illegible]

百首歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

慶安三年通家卿記 従二位藤原朝臣合奏

陸奥守

永久四年七月六日 陸奥守合奏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

539

つたうてたゆの神山うちゆふひゆふへ乃きりにたちそはるる

月前霧

月をてしるくさわうのてるすゑすゑのこゑすさまじ拾遺の山

宗盛公入道院六條殿ニ御座ス 如教法師

さしもなる月山くまもなくたまるこゑ山ちかくなる

拾古今集云 寂蓮

秋千中

河霧のまよるなくしかれいとゝなる山ちかくなる

嵯百

百首歌中

つゆのそこひよりさそふ秋の月

白露百首

後二條殿御歌

三百首歌千中

遠保三年九月十三夜千首千一合暮山鹿

中務卿のみこ歌会

ゆふつくひこゑすさまじかるあさ山のつまとしのつまとの山

暮行

權大納言經平卿

つたひふみちのなくまりかく夜すがら風の山おろしの久音

正三位知家卿

秋ふくる山のたちつのゆふこゑにたちやそうのいくさろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大僧正法印泉清左衛門尉秋

法印宗忠

あふさかのせきの関水ながれてとうとう秋ハ来にけり

法印宗海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋部中二十

歌 花物

あかれしやねのしらつゆとこそはつらんそらつはたる秋の夕暮

建長八年百首歌合　右兼宗卿経家

ありまさらしたのくもみちうけさえ通ゆきのあしたの秋の夕暮

藤原為家朝臣

六三

あさみちのふるさとそなるうへのくもいかなる秋の夕暮

弘安元年八月歌合歌　合席

ゆふされはよしたちそはつやはんさん面のもひとそ秋

永久二年九月十三日内裏歌合

源仲正

いつかりの雁ちさ秋の月をまれいかなる雲のうへ

星

弘安二年七月十五日歌合　合撰席

源行宗

月をとつるあけはまとうくるはすむしちのあけはの

晴

仁安三年八月後鳥羽院歌合　席

源師光

あかしかりくる秋のあさ山しやとのうへ

百首中

藤原清輔朝臣

さやしのゆちふてつたにあれんくやちくこえ萩のゆ

逢

543

歌案

西行法師

玉葉秋

ちるもみぢとうつるはなとをみるにはすぎのやどのはるのこころ

寛元二年百首

ながつきのはつかのよるのつきをみてよめる

ながつきのはつかのよるのつきをみてよめる

仁安二年八月十五夜

月けのさやかにくまなくてとしをあはれとおもふこのよは

山寺月を法師ありけるに

寂蓮法師

ながめやる時はなにとはなけれどしのばるるかな秋の夕ぐれ

三夕七

三夕

三夕

三夕

5444

中納言家持卿

千五百番歌合　後二位保季卿

寄月恋　信実朝臣

後鳥羽院御製

寄月恋　同

建保二年内裏歌合　後成卿女

百首歌　民部卿

寄月恋　後久保桜

常盤井入道太政大臣

5445

[illegible]

百首歌中

[illegible]

遠係四季内裏十首歌 正三位行衛

[illegible]

秋雜部歌

人丸

あさとりの翅[illegible]

[illegible]

千里

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家

[illegible]

久安元年十七社百首　民部卿

[illegible]

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

いつしかと[illegible]

建保二年八月八幡宮六十合歌

[illegible]

皇太后宮大夫俊成

いまさらに[illegible]

俊成女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

547

あきの月をよめる　　拾遺　源重之

山の端をいでぬる月のつれなくて
雲つたへとは誰かとはまし

山の端をいでぬる月

久方のあまとぶ雁のつばさ
或本序に云

源重之

常世
ときよりの月すみのぼりたれかまた
雲のよそにぬれぬとは
ときよりの長きむかしをよみてよ秋の夜の月
百首の中に月

加茂の院小宰相

りのかげにいとゆかしきすみのぼりたれかまた秋の夜の月

仙洞新侍従合に月を題にて

重
長きよをあかしかねたる秋の月
ながめ

十訓百首に月

秋の夜の月はまちいでつるかたもなくすみのぼりたる雲のうへ

西院院百首　月

みしかの里にあれて秋のたれかまた
八月十五夜立花仏前に月

あき
ゆく秋をいとはぬ人の月にまた
山家百首に月　　家長卿

こゝろ得ぬ人のうらみをいとはじ

建久三年九月十三日大江廣元奏聞

第中納言定家卿

[illegible]

ひと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

549

浪 絶

[illegible]

[illegible]

あきかぜ

波よわる[illegible]

遠保二年九月百首中のうちに

順徳院御製

[illegible]

浦 蜑

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正治二年百首　三条入道左大臣

かりそめのこゝろねさめてあさみどりのそらもはるゝ

ゆくすゑや名をのこすらん　法師光

家集　寄花述懐

さきのこゝろにかすみてはるのこゝろもわかんなん

大井川行幸の後日　花山院内大臣

大そうにはらひもあへてうゑかりのはるのこゝろ

家集　和歌所

ゆくすゑのこゝろにかすみてはるのこゝろもわかんなん

文治元年七社百首　民部卿

うけてふるはなつさとにもとんりのはるのうはぐも

百首　寄月恋　富蓮法師

ちりはてゝかくれぬるつきをまちいでぬるかな

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

もろこしはゆくすゑとをしはるかぜにはるのこゝろ

文治元年七社百首　民部卿

みゆきする河ちかくゝ社山はるゝこゝろに

551

同

百首中 春歌四

遠長八年百首の合 右近中将経家

春夜霞

伝賀茂真淵

同

弘長元年百首

遠保四年内裏の合 藤原雅経朝臣

春夜霞 後鳥羽院

同

同

藤原雅経朝臣

夏月

伝賀茂真淵

貞應百首四十首　光明峯寺入道摂政

月ゆけばあはれとぞおもふ[illegible]

貞應元年八月百首合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建保三年秋十首合秋歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十五疋六寸合

[illegible]

[illegible]

二条院御時

[illegible]

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋千中

[illegible]

遠江七年[illegible]千貫[illegible]

[illegible]

[illegible]

正和三年百首中

なさわるる雲井の月はいまや末すゑのさらら

久安元年百首

久しくふりぬるやどのをぐらの山のかけよ

永仁二年内裏千首

月ちりぬ山のをぐらのやまかぜに

さらにまちてうるる花の山のしらゆき

前大僧正尊円

新続古秋下 正

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三百六十貫中

[illegible]

歌集

海原 [illegible]

[illegible]

[illegible]

秋田

遠長五年毎日三十貫中 民部卿

[illegible]

文永元年毎日一貫中

[illegible]

遠徳四年四貫九十貫六合

光明寺入会料

文永六年五社百貫 [illegible]

[illegible]

四貫二年百貫 [illegible]

551

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小弁

家集 秋歌

源仲正

[illegible]

家集

花山院御製

[illegible]

家集

如覚法師

[illegible]

秋歌中

[illegible]

558

拾雑上

[illegible]

家集

[illegible]

建保三年名所百首　後西行法

[illegible]

千五百番歌合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

他阿弥陀仏

[illegible]

秋歌中　百首歌合　冷泉為秀

[illegible]

洞院摂政家百首歌　光俊朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

360

[illegible]

[illegible]

三百年前中

大納言俊信卿

[illegible]

新古今六二

[illegible]

[illegible]

三百年前中

[illegible]

[illegible]

新古今六二

[illegible]

[illegible]

新古今六二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やまの門田のいなは風にてひとつなびかせて波ぬる

民ア々百姓郷

家百首 秋 六

ちちさうくかなるこつきに下名をとさこのそそ田をところあき風

寛治二年百首 秋田 佐賀多

賤の男

あつれおなくこうろうそあつとやま田代ひくこのひくさて稲をこきこ

打

寛元元年常入百首 凡 常中納言家歌 淋

ここのあきうの天見るる秋のあ日にわすやとこのうすもうきた

秋田 中条師定多長 5

いるもりろこうや門田の秋の門あきあわせ民のこつきといそく比多郷

車 常中納言

建久六 秋の田代これいこうろれこの車ひくこのつものとつこわすうん

正治二年七月百首 百首イ 合

ゆふこれいこふおうろまつ田のつのかつ面のつのものそうこうこう 一宿

民ア々花之

いろくこかて田のつるかあこ吹ここる風こ井こうしこもこ水

大風を通夏々

いつここそこもれこうこいそこひここそこのつるのれこうこ稲穂

鳴子

寛元三年 法楽百首 民ア々百姓郷

あつまれ器生の稲穂いそこれいこの何代このこここここここ

382

杜田

六三 杜門よりあるいは素のくらけてくるのちの所のもろもろ法
杜門乃ふけいるもろもろのものいとくけてあとより所うか
永久四年九月おもろ居る杜畑所合杜田

聽西三人

そねもろ田いりそあれ荒ろろいのもろれてもろ
もりか

ろ三人もろ

六三 そ
そりろ
そりろ田の池いるもろ池ほ
大治元年八月杜政左長家所合杜若乃
西住法師

いるもろ田のいりにもの所のもろよ乃所のもの
三ろ判 判乃 後教弟 右 所寺五文所のひろ
ましらんいるもろいりるすくへろひの心
すくなしいりにいて自田ましひやか人
きとえし

天永二年四月為人所合杜田
ろ三ひろしす

ろの田ろりひろ所 賦 ろ衣
大治元年八月杜政左長家所合点
修杜弟長

秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣手は露にぬれつつ

四位中納言判公後拾遺

ながらむこころ人しれずこそ思へ

僧侶歌の名字相違ある歟如耕田秋耕

西勝此経如是諸経より勝といへる文を学人

べきなり秋入すなはちまさしくしるべし

仲實卿

摂河院の御百首

みやまぎりはるるまもなくなりもてゆくのの

家集雑部中

中納言家卿

ひきの山のもみぢはてもとたつるとやりへりそ

秋中

貫之

つゆをなにたとへてとらんとりもあへぬ

泡盧とりつれば

よるべもしらずす

六二

うらもなくてをりつるものをこの河はいつの手よりか

永久四年九月十五日歌合 秋四

仲實卿

てもすまたにひきのうけなはうらもかは

二条院讃岐

千載百首 秋

猪千高四

ひさのうへのもみぢの色をうつしてひく人あらはあやまちて

義清法師

584

[illegible]
六百五十六石合 [illegible]
[illegible]
建武七年[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六首歌合 仲言朝臣家歌合

久しきよりのちひのもとにてしるすなり

ちとせをやあれる宿のうゑねこまつさかりのあるの春

隆信朝臣

ひいらぎのうゑ枝あるすゑつむはつかりかりの

家建法師

ゆくすゑしさうの風のうちけさとくやうのつま

山寺判官右衛門尉

ひなりとて秋いりけさやとゝまんるや

[illegible]

いとゝ[illegible]安仁の秋興賦にも燈燭のうゝ[illegible]

園しうの蛩蟀のまりくるを庭前になくと

とりの朝鳴素乃[illegible]

[illegible]

百首歌中

同

[illegible]

永久四年百首 橘義昌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝりの[illegible]

30.1

[illegible]

佐實為長

[illegible]

武蔵々国家卿

康元二年毎月三十首

[illegible]

稲負鳥

[illegible]

三行分ナシ

屏風ノ

家里

[illegible]

千載集

順

[illegible]

鳥

[illegible]

大和物語

百首中

[illegible]

鳴

後子

[illegible]

[illegible]

鳥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九十九首題不審

建長八年百首の会　後二位殿家歌

判者藤原定家

大木和歌抄巻第十二終